

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271600670		
法人名	有限会社 あやめの里		
事業所名	グループホーム あやめの里Aユニット		
所在地	長崎県南松浦郡新上五島町鯛ノ浦郷397-4		
自己評価作成日	平成22年11月28日	評価結果市町村受理日	平成23年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成23年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型サービスとして地域の人達との交流を今年度は重点的に行いました。入居者及び家族があやめの里で生活していて良かったと言われるようになりたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平屋建ての事業所は静かで快適な環境の中にあり、ゆったりとした生活が出来る十分な空間を有している。2つのユニットが隣接している事で、様々な点で協力を得ることが出来る部分は大きな強みの1つと言える。理念と基本方針の中に謳われているように、地域密着型サービスとして地域や関係機関へ積極的に働きかけを行い交流を図っており、また、利用者に対する支援の在り方に関してもひとりひとりの人格を尊重し、利用者本位の支援が出来るように職員皆が意識をもって取り組んでいる。職員の自己啓発に対する意識が強く、それがサービスの向上に繋がっており、一方で、事業所側のサポートがある。運営推進会議や事業所内での会議の中では意見や要望の抽出に努めており実現や改善に繋がった事例がある。介護計画書はケアマネジメントサイクルの基本過程に則って作成されており、現状により即した内容となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「楽しく 個性的に ゆっくり 自然に」の理念を大切にして、管理者と職員は日々利用者の生活を支援している。全体会議で理念を具体化するために基本方針を話し合い意見の統一を図った。	平成22年に理念を基に具体化した基本方針を職員全員で作成している。方針には地域密着型サービスとしての方針が掲げられており、個人の尊厳を重んじるためには、利用者の生活歴を十分に把握し結果を早急に求めず、利用者のペースに合わせるといった事の実現に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域住民の一員として、回覧板を回したり、ごみ当番をしたり、地域の行事などに利用者と参加している。	地区の自治会に加入しており、七夕祭等の事業所の行事には住民を招待したり、運動会等の地域の行事に参加している。また、地区の老人会が事業所の草刈りを行ってくれている。その他、同じ地区にある施設の子供達がハンドベルの発表のため訪問する等、交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・当事業所が、地域の人々へどのような方法で認知症の理解や啓蒙活動に貢献できるか検討中である。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議で参加メンバーからの要望、質問、意見などは、全体会議で報告し、事業所のサービス改善につなげるようにしている。	年6回開催されており構成メンバーの条件を満たしている。内容としては、利用者の現況や行事報告を中心に外部評価の結果報告等が行われている事が議事録で確認できる。参加者から、生き物の飼育や職員の名札、ハンドベルの受入等について要望が挙がり、検討し実現に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営推進会議に町の担当者に参加して頂いたり、認定調査に見えた町の担当者に利用者の暮らしぶりなどを伝えて関係を作っている。	必要に応じて役場の担当者とは連絡を取り合っており、介護認定調査員の受入もある。また、地域包括支援センターの職員とは、運営推進会議時以外にもグループホーム連絡協議会の中での情報交換等の交流がある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・職員は、利用者が外へ出たい様子があれば、さりげなく声をかけて付いて行ったり自由な暮らしを支えている。玄関の施錠は夜間のみ。	事業所の倫理綱領の中で謳われており身体拘束を行わない支援に努めている。やむを得ない場合の同意書等を準備しているが使用する事例は生じていない。また、職員は外部研修に参加し行く事が出来なかった職員のために研修の報告を行っている。日中は玄関の施錠は行っていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・県主催の虐待防止の研修会に毎年職員を参加させて報告させて皆で検討している。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・なかなか制度について学ぶ機会が少ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時には、ご家族が納得のいくまで丁寧に説明をしています。入所後、疑問などを問われたらそのつど十分に理解し 納得されるよう話しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・御家族が 面会に来られた時など、積極的に問いかけて気軽に話せるよう努めている。伺った意見は、各棟に伝えたり全体会議の中で話し合うようにしている。	電話連絡や利用者との面会時に家族から意見等の抽出を行っている。基本的には介護に直接的に関わる部分での要望が主となっている。要望等があった際には、業務日誌や申し送りノートに記録し職員全体で情報の共有を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・全体会議が月に1度あり、職員の意見・要望が出しやすい雰囲気がある。	職員が意見等を言いやすい環境であり毎月の会議の中では車いす用のテーブル等物品購入の希望や行事のプログラムに関する意見等が挙がっている。また、職員の資格取得に対する意識が高く、事業所側としても勤務シフトの調整等、支援する体制を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めているがお互いが満足するには到っていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・保健所、役場などの研修会、講演会などには、本人の希望があれば参加を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・現在のところ、同業者(職員同士)の交流の機会がない。介護支援専門員同士は、会議を開いて意見交換をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・事前の面談で生活状態を把握するために本人様の話を傾聴し、不安を解消し、できることはなるべく実現していけるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・これまでの家族の介護やサービス利用状況などのお話を伺い不安なことや要望に対して誠実に対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人の気持ちを十分に聴き、家族の要望と折り合いをつけ柔軟に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・毎日の生活の中で馴染みの関係を築きつつも入居者の尊厳は大事にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・面会に来られた時など、お話を伺ったり、家族の立場に立って本人にとって一番良い方法を家族とともに見つけていくよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・時々自宅に帰る機会を家族と相談したり、馴染みの店に買い物に行ったり、地域の一員として関係の継続を大切にしている。	利用者の生活歴や置かれていた環境を日々の会話の中から聞き取り文書でまとめている。事業所には利用者の友人や知人の訪問はあり、行きつけの美容院や商店での買い物、家族の支援も借りながら法事や自宅への一時帰宅等の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者同士のトラブルが多い時は、当事者を連れ出したり関係悪化にならないよう配慮して、関係が上手くいくように職員が調整役となって支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・なかなか終了された方への相談支援は実施されていない。家族と町で出会ったりする時には様子を伺ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・本人の希望や意向を伺いながらも、できることとできないことは伝えている。表現が困難な方は、日々の行動や表情から思いをくみ取るようにしている。	日々の会話の中で、本人の要望等を把握する事に努めている。表現が困難な方からは、表情から喜怒哀楽の感情を読み取り要望等を抽出する事に努め、信頼関係の構築を行っている。帰宅を要望される方への対応も声かけの仕方を工夫し、落ち着いた優しい対応に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・面会に来られた時などに家族からこれまでの暮らし方について十分聞き取りをするように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・入居者同士のやり取りが、職員が把握できないように行われる時があり、後でトラブルに発展するので職員は常に目を配り、状況把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・各棟の会議で意見を出してもらい、モニタリングをし介護計画に反映するようにしている。	介護計画書は計画作成担当者が作成したものを基に、カンファレンス時に職員からの意見を抽出し作成している。また、原則3ヶ月に1回モニタリングを行い、見直しを行っている。家族の要望としては飲食物の摂取について等の要望が挙がり改善に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・職員間の情報の交換には、日誌や個別記録、バイタル表などを活用し、申し送りで情報を共有するように努めて確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・ご家族の状況に応じて送迎など必要な支援は柔軟に対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・町の移動図書館の車がホームに来てくれ、利用者が本や紙芝居などを借りる機会がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・受診は職員が付き添ってかかりつけの医師に診てもらい何かあればすぐ家族に連絡する。	家族等の希望を考慮し、定期的に内科、歯科等の受診、送迎支援を行っている。通院にはケース記録を持参し、主治医の診察後、指示や薬の変更等について記録を行い、更に申し送りを行っている。また、週に1度の訪問看護を受け、指導内容を記録し全員に回覧している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・週に1度、訪問看護師がホームに来てくれ、相談に応じてくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・特に家族が島外にいる方などについては、病状を密に報告している。また病院の洗濯物をホームに持ち帰ったりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化したり、終末期を迎えたりした場合は、そのつど家族との話し合いを行い、ホームでの生活が難しい場合など特養などへの移動を支援している。	今までに看取りを行った実績はないが、家族からの要望があれば対応を検討する事が書類に記載されている。しかし、実際書類に沿って家族に説明を行った事例は無く、重度化等に関する研修等への参加も不足しており、対応できる職員の育成や意思統一が遅れている。	重度化等への対応については適時、家族等への説明を行い同意を得ておく事が望ましい。また、事業所の方針や対応方法を職員と一緒に検討し、スキルのアップや意思統一を図っていく事を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・緊急マニュアルがあり、急変や事故発生の場合の対応について日頃から話をしている。また消防署での訓練にも職員を参加させている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・マニュアルを作成し、定期的に避難訓練などを実施している。地域の協力体制については運営推進会議などで協力をお願いしている。	火災に対する対応フローチャートがあり、連絡網も明確になっている。また、スプリンクラーや自動通報装置を備えている。しかし、今年度は、火災に対する避難訓練や消火訓練が、夜間想定で1回しか行われておらず、火災以外の災害に対する対策等は検討している段階である。また、地域への協力依頼も継続中である。	火災避難訓練等は年に2回以上行われる事が望ましく、今後も引き続き地域の住民等への協力の働きかけを行う事を期待したい。また、火災以外の災害に対する対策等についても行政や地域の同業者等と協力し明確化される事が望まれる。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・トイレ・入浴の誘導などの時は、さりげなく言葉をかけたり配慮している。また、居室に入室の際はドアをノックし本人様に確認して入室するようにしている。	個人情報の保護に関しては、職員の入社時に誓約書を取っている。記録は外部から見えないよう所定の場所に保管してある。入浴支援時には同性介助を望まれる方はその気持ちを尊重し対応している他、利用者の日常生活がわかる写真の使用に関しては事業所内のみとしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・本人様がどうしたいのか、まず気持ちを確認してからご希望に添えるよう支援を進めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・まだまだ、一人ひとりのペースより職員の意図を優先すること多い。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・着替えの時、服を選んで頂く。馴染みの美容院に行ったり、床屋をホームに呼んでカットをして頂いている、			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食後にゆったりとするよう努め、片付けなど手伝って頂いている。	食事の準備や片付けの際には利用者の状態に合わせて手伝ってもらっている。食事の時間は食事が早く終わっても敢えてテーブルについてもらい、職員も同じテーブルで食事をしている。また、利用者との会話を楽しみながら、「ごちそう様」の唱和を皆で出来るように配慮している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・水分量、食事量については一人ひとり記録をして状態を把握するようにしている。献立は、栄養士に立ててもらっている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・自分でできる方は、声掛け見守りをして、できない方は職員が介助して毎食後、口腔ケアをしている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄は日中は殆どの方がトイレを使用し、重度の方はトイレに誘導し確認をしている。 排泄の失敗など自尊心に配慮して対応している。	排泄については排泄チェック表の中で利用者別に排泄パターンを把握し、トイレ誘導の声かけや医師の指導の基、下剤を使用し排泄の調整を行っている。オムツ使用の利用者も数名おり、また、必要に応じて居室でのポータブルトイレの使用もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・排泄記録表を確認しながら下剤の服用や、排便が3日目ない場合など座薬を使用したりその方に合わせ対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・一人ひとりの希望に添うのはなかなか難しい。隔日入浴を実施し、必要があれば入浴して頂いたり柔軟に対応している、	隔日を目安に入浴支援を行っている。要望があったり利用者の状態によって日時の変更は柔軟に対応している。車いすの方には安全の確保のため職員2人が付き対応している。浴室等には滑り止めを設置しており、必要に応じてシャワー椅子等の福祉用具を利用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・本人のペースに合わせて就寝や起床をして頂く。また職員は毎日、寝具を整えたり、本人様が安心して眠れるように環境作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・週に一度、1週間分の服薬を職員が整えることで把握を確実にし、病状の変化に応じて主治医に確認をとって変更している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・洗濯物を干したり、編み物、ジグソーパズルなど本人が進んでされることは継続できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・本人の希望があれば、美容院に送迎したり、馴染みの店に買い物に出かけたりしている。	事業所の近くを散歩したり、買い物、花見、ドライブ等に出掛ける事がある。頻繁に外出を行う事は難しいが、車椅子の利用者も含めて可能な限り要望に応えられるように努めている。また、楽しい時間を過ごしている事が事業所内に掲示してある写真から見て取れる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・事務所で預かり金は管理している。本人が管理できる方は持っておられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・ご本人が希望すればいつでも電話できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・毎日掃除を行い、入居者が気持ちよく過ごせるようにしている。	音や光等は適度であり、建物内には随所に手すりを取り付けられ、洗面所は、車椅子の方でも使いやすいような配慮がなされている。A、Bユニットが事務室で結ばれているため、利用者の行き来が常に把握できている。また、リビング等には季節感を感じ取れるような装飾が見られ、居心地のいい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・テーブルや椅子の配置を気の合ったもの同士が座れるようにしてトラブル解消に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・本人様が使い慣れた家具などを居室に持ち込めることができ居心地良く過ごせるようにしている。	居室の掃除は少なくとも毎日1回は職員が行っており、清潔感がある。居室には作りつけの収納棚がある他、自宅から使い慣れた馴染みの棚や時計、テレビ等が自由に持ち込まれていることが確認できる。また、写真やカレンダーなど利用者の好みで飾られており、本人のこころよい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・建物内部は、バリアフリーで安全に暮らせるよう配慮している。居室での転倒などの危険がないよう十分配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271600670		
法人名	有限会社 あやめの里		
事業所名	グループホーム あやめの里Bユニット		
所在地	長崎県南松浦郡新上五島町鯛ノ浦郷397-4		
自己評価作成日	平成22年11月28日	評価結果市町村受理日	平成23年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成23年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型サービスとしてあやめの里が地域の交流の拠点になれるように今まで以上に交流促進を計りたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「楽しく 個性的に ゆっくり 自然に」を理念とし地域の中でその人らしく暮らし続ける事を支えていくサービスを行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運動会は毎年地域の一員として参加している。七夕会は地元の方を呼んで一緒に行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援方法を、郷長及び民生委員までは勉強会等をして浸透させているがまだまだである。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新上五島グループホーム連絡協議会及び新上五島町主催の講演会又は勉強会を通してサービスの質の向上に取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実践できている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待防止の勉強会に参加し、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会がなく、これから勉強会等を開き活用できるようにして行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績、勤務状況などは把握しているが、労働時間、やりがいなどは向上心を持って働けるように努めているがまだ双方が満足するには至っていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会が多くなり、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長が新上五島グループホーム連絡協議会の会長をしているため、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者一人ひとりが安心して過ごせるように、困っていること、不安なこと、要望などに耳を傾け、深く関わりを持つようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方が来られた時は、入居者の体調や生活状況を話し、家族の要望などにも耳を傾け、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	スタッフミーティングを実施し、入居者一人ひとりのサービス内容を確認し、新しいサービスの内容や変更などを統一し対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何か本人にやってもらったり、一緒にしたり、会話の時間を多く持ったり、一緒に過ごすことにより、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方がみえられたら、入居者の方と少しでも長く時間を過ごしていただけるようにと心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙、来所時間や外出時間なども自由にでき、入居者の家族や出身地などについて話をしやすいようにこちらから話題を持ちかけるようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立しないように声かけし、全員参加できるアクティビを行い、楽しい時間を過ごしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その後、どうしているかなど、他の方から聞くことはある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ本人がやりたいこと、できることを断続して取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の方に聞いたり、入居者との会話の中で生活歴や暮らし方、生活環境など、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の行動などを観察し、体調面、生活面において小さな変化も見逃さないように心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題と計画のあり方など、スタッフ間で話し、ケアマネが一人ひとりにあった介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活での変化などは記録し、把握できていますが、ケアの結果、工夫などはミーティングなどでしか確認できていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人にあった支援をできる限り実践できるようスタッフ間で協力している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向を考慮し、安全で豊かな暮らしができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度の受診と変化があったときなどはその度受診している。また訪問看護師を行って頂いていることもあり、連携はとれている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週水曜日に訪問看護師が来られ、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お見舞いに行き、情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と医師、ケアマネが連携し、支援しているように取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応の訓練、応急処置の講習は受けていますが、定期的には行っていないので実際に起こったときに全ての職員が対応できるか不安がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、どのような非難を行うかの手順は確認できていますが、地域との協力体制はあまり築けていないと思う。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しい間柄の話し方の中にも敬語で話すように心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表せるように働きかけたり、信頼関係を築けるように入居者と接する時間を多く持てるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく一人ひとりのペースを大切にしたいと思っているが、他の入居者のケアと重なり、できないときがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で化粧される方もおられ、受診時や外出する時、行事などでは、希望する身だしなみができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みにはできていないが、嫌いな食べ物があれば本人に聞き、出さないように努力している。また準備や食事、片付けは協力できる方にはしていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事制限がある方は、量をはかり、主治医などに相談しながら必要な分は摂取していただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアが必要な方に対しては実施していますが、全員は把握できていない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗やおむつの使用は減らしていますが一人ひとりの力や排泄パターンはまだ確実に把握できていないところもある。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫や体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。また医師と相談し、その人にあった予防と対策に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2日に一度の入浴でそれ以外に入浴したい場合には行っている。また入浴する前に必ず声かけし、順番などはできるだけ希望に添えるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中アクティビを行い、昼夜逆転がないよう努めている。また状況に応じては休んでいた。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院記録等を見るなどして新しい薬が処方された場合などは本を調べたり変化なども観察しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	スタッフ間で話し合い、情報収集やアクティビでの状態を見ながら、色々と試行錯誤しながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外に出かけることはあまりできていませんが、家族の協力により外出・外泊はして頂く事はあります。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は持っている方もいますがなくなってしまう方もいる為事務所に預けるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の人に家族から手紙や贈り物が届いた時や電話をしたいなどと訴えがある場合は、支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の状態や性格を見て、部屋の場所を決め、居心地良く過ごせるよう工夫しています。(玄関。リビングなど時々花を飾る・壁には季節感を出すようその時期をテーマにした貼り絵を飾る)		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、ソファー、和室など一人ひとりが好きな場所で自由に過ごす事ができます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたもの(タンスや布団)や好みのものを活かして、本人が居心地良く過ごせるようにしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できること」はなるべく職員は手をださなうようにして見守りを心がけています。また安全に過ごしていただくよう急かさず、ゆったりした声かけを心がけています。		